

令和6年度 白川郷学園 国語科研究構想

研究主題

学びのひとりだちを目指す授業の創造

国語科で願う子どもの姿

言葉による見方・考え方を働かせ、多様なものの見方や考え方に触れ、自分の思いや考えを広げたり深めることを通して、言葉で正確に理解し、適切に表現する姿

児童・生徒の実態

- 課題解決に向けて、既習事項を使ったり、仲間と考えを交流したりして、自分に合った解決方法を選択し、自分の考えを広げ深めようと主体的に活動に取り組むことができる。
- ▲ 表現したいことを整理したり、根拠を明確にしたりして、話したり書いたりすることや、言葉に着目して内容を正確に読み取ることが苦手な子が多い。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・目的・方法・場面状況・評価意識を明確にし、考える必然性を生み出す言語活動の設定
- ・育成をめざす資質能力を明確にした単元指導計画の作成

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・見通しをもって自分の学びを展開するための視点やモデルの提示
- ・自分に合った学び方を選択できる場の工夫(視点の可視化、共有)
- ・主体的・対話的に考えを伝え合う場の工夫(学習支援ツールの活用、少人数グループ、問い返し発問)

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の場の設定
- ・自分の学びを振り返り、改善・調整しながら学習を進められる学び方の価値付け

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実